

平成28年度 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 八児 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成28年4月19日(火)に、3年生を対象として、「教科(国語, 数学)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査(国語, 数学)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
<ul style="list-style-type: none">・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容・実生活において不可欠であり、常に活用できるようにになっていることが望ましい知識・技能	<ul style="list-style-type: none">・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

(2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 数学A・B)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		数学A		数学B	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	24.3	74	5.8	64	21.2	59	6.1	41
全国	25.0	76	6.0	67	22.4	62	6.6	44

(2) 本校の学力調査結果の分析

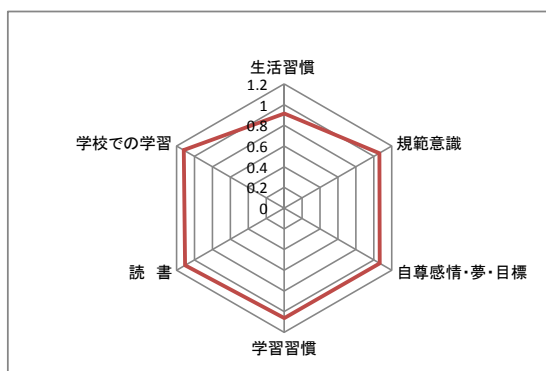
国語A	全体的な傾向や特徴など	・国語への関心・意欲・態度は全国平均を上回っており、書く能力についても全国平均を上回っている。 ・読む力を問う問題の平均正答率が低く、読む能力に課題がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	ほとんどの設問で無回答率が0%であり、全国平均無回答率を上回ったのは1問のみであった。歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読む問題の正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	話の展開などに注意して聞き、自分の考えと比較する問題の正答率が低かった。	

国語B	全体的な傾向や特徴など	・昨年度より、正答率が上がっており、記述式の問題形式の平均正答率が全国平均を上回っている。また、無回答率がすべての設問で全国平均を下回っている。 ・書く能力は全国平均を上回っているが、読む能力に課題がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	本や文章などから必要な情報を読み取り、根拠を明確にして自分の考えを書く問題の正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	文章の構成をとらえる問題の正答率が低かった。	

数学A	全体的な傾向や特徴など	・図形を除くすべての領域で全国平均を上回っている。数学的な技能については、全国平均と同程度である。 ・ほとんどの設問で無回答率が全国平均を下回っている。	全国平均正答率との比較 同程度である
	よくできた問題	一次関数の式から変化の割合を求める問題の正答率が全国平均を大きく上回っている。	
	努力が必要な問題	確率について、正しい記述を選ぶ問題の正答率が低かった。	

数学B	全体的な傾向や特徴など	・すべての領域において、全国平均を下回っており、特に図形に関する正答率が低かった。 ・計算はできるが、数学的に表現したり説明したりすることに課題がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	グラフの傾きを事象に即して解釈することを問う問題の正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	計算の過程を振り返って考え、数あてゲームの新しい手順を完成する問題の正答率が低かった。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・本校生徒は、起床時間がほぼ決まっており、朝食を毎日食べている一方、就寝時間が午前0時以降の割合が40%を超えている。 ・「学校の規則を守っている」「はじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」と全生徒が回答しており、規範意識が高い。 ・学校行事等を通して、学級や学年で協力してやり遂げる経験から、達成感を味わっている生徒が多い。 ・学校の宿題をしている生徒は98%を超えており、各教科で継続的に出されている宿題の成果が表れている。その反面、自分で計画を立てて学習をしている生徒は半数を下回っており、自発的な学習が身につけていない。 ・授業中の規律は守られており、国語や数学の勉強は大切であると考える生徒が多い。また、学校が楽しく、好きな教科があると回答した生徒も全国平均を大きく上回っている。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

<ul style="list-style-type: none"> ○授業での生徒間の話し合い活動において、自分の意見をきちんと書いて表現する場面を意識して取り入れる。 ○授業や裁量の時間を利用して、英単語コンクールや漢字コンクールなどを実施する。 ・コンクールの成績向上者は学年の掲示板に掲示して表彰することにより、学習意欲の喚起を図る。 ○見通しを持たせる工夫や視覚的な情報提示の工夫など、ユニバーサルデザインをとりにれた授業を11月以降、教師集団が複数回お互いに参観することで、各教科の普段の授業改善に取り組む。
--

② 家庭生活習慣等に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> ○宿題のスタンダード化 <ul style="list-style-type: none"> ・自学自習ノートを提出させ、点検を行う。・週末課題(英語)や毎日のミニドリルプリント(数学)など、教科の特性に合った宿題を継続していく。 ・試験勉強時間のクラス合計値の目標を決め(例えば「めざせ150時間」など)、学習は団体戦であることを意識させ、学習に取り組むきっかけを作る。 ○全国学力・学習状況調査の課題と取組を、HPや学校だより、PTA理事会等で保護者に説明し、家庭と連携して協力体制を整える。
--